

令和4年度 平山小学校 経営反省

*注 <学校評価参考資料>学校評価アンケート（保護者）、県学力調査（5年）、まなびフェスト振り返り（児童・保護者）

学校経営反省（教職員）

1 経営の重点反省

（1） 学習指導要領に則した特色ある教育課程の編成と計画的な運営を図る。

◆学校評価アンケート／学校は特色ある教育活動をしている（A評価 89%）

⇒小規模校の特性を生かし教育課程に即した教育実践ができた。また、各学年の学習カリキュラムに合わせ外部講師を活用するなど専門の方々にご協力いただき実践することができた。

（2） 児童の「楽しい、わかる、できる」を目指した授業実践と基礎・基本の着実な定着を図る。

◆県学調／自ら進んで学ぶ・授業で考えを深めたり広げたりする児童割合（A評価 100%）

⇒自ら進んで学ぼうとする児童の割合が高く、自分の考えを深めたり広げたりできている。苦手な教科や発展的な学習に対する主体性を高めることが課題である。

⇒一人一台タブレット端末が配備されて2年目となる。本年度は、どの学年も授業に合わせた活用を図り、高学年では自宅に持ち帰っての学習も始まった。使用のルールを確認させながら家庭との連携も図りたい。

（3） 明るく生き生きとした学校生活を送るための学級指導、生徒指導の充実を図る。

◆学校評価アンケート／学校が楽しいと思う児童の割合（A評価 86%）

◆県学調／学校が楽しいと思う児童の割合（A評価 82%）

⇒保護者の学校への協力体制が確立され、学校が楽しいと回答する児童の割合が高かった。成長に伴い悩みを抱える児童もいるが、組織的な対応を図っている。

（4） 道徳教育、体育・文化的活動や復興教育の充実により、心身の健やかな育成と命の教育の推進を図る。

◆学校評価アンケート／学校は特色ある教育活動をしている（A評価 89%）

／いじめの未然防止及び早期発見に関わる取り組みを積極的に行っている（A評価 86%）

／命を大切にする心や社会のルールを守る態度の育成（A評価 80%）

⇒コロナ禍にあって、保護者や地域の方々の理解や協力の下、取れるべき対策を講じながら行事を実施することができた。また、心の教育やアンケートによりいじめの防止に努めた。いじめについては、児童・保護者に定期的なアンケートなどを実施して実態把握し対応できた。

⇒防災関係については、火災、津波などを想定した避難訓練を4回実施した。その他、各学年のカリキュラムで防災学習や心肺蘇生法・AED授業などにより見学や体験授業が実施できた。

(5) 一人ひとりの実態に即した特別支援教育の充実を図る。

◆学校経営反省／一人一人の実態に即した特別支援教育の充実 (A 評価 57%)

⇒各学力調査や標準学力検査(CRT)の結果を分析しながら、子どもたちの学力課題に対する授業改善など手立てを講じた。個々のつまずきに対応する細かい指導を更に確立したい。

(6) 全職員による学校経営評価、学校関係者評価システムを活用した学校経営の改善を図る。

◆学校経営反省／学校評価の活用 (A 評価 42%)

／全職員の経営参画意識の向上 (A 評価 57%)

⇒今年度職員体制が大きく変わり、慣例内容を踏襲した中での取り組みが多くなり、教職員の満足度が高くならなかった。活動の趣旨の理解を深め、協働した活動で充実感を高めたい。

(7) 保護者の「まなびフェスト」の理解を深め、目標を共有した教育活動の実践を図る。

◆まなびフェスト振り返り／親子で話題にしたり確認したりしている (A 評価 62%)

⇒個々の取り組み目標は概ね達成できている。習った字を書くこと(79%)、読書目標の達成(68%)、早寝早起き(79%)の子ども自身の評価が若干低くなっている。保護者との共通理解を更に深め連携を図っていきたい。

(8) コミュニティ・スクールにより学校運営の理解と協働による地域教育力を生かした学びを推進する。

◆学校評価アンケート／学校はPTA活動や地域活動に協力的である (A 評価 80%)

◆学校経営反省／保・小・中、関係機関との連携が図られたか (A 評価 57%)

⇒コロナ禍にあって、委員の皆様には学校の活動を見ていただくことができた。夏井地区3校合同での学校運営協議会の取り組みは、地域教育力を学校教育に活かすばかりでなく、地域の活性化につながるものだと感じた。また、学校の地域コーディネーターの役割は大きく、地域とのつながりや教職員の多忙解消の一助となり学校教育の活性化につながった。

2 本年度外部機関との連携

※ 別添資料参照

【活動写真】

〈①夏井小学校との交流学習〉



〈②養護教諭によるAED授業〉



〈③原木しいたけ植菌体験〉

